



鴻巣西中通信

学 校 だ よ り

鴻巣市立鴻巣西中学校
鴻巣市大間1161番地
令和2年6月1日

第3号

「今は非日常なのか、これが未来の日常なのか」

校 長 服部幸司

緊急事態宣言が解除され、学校再開の日をようやく迎えることができました。ここでは、この日までの学校が知る西中生の状況を紹介して、再開の第一歩を踏み出したいと思います。



5月21日(木)、半分は空席の教室(男女別登校)で、以下①～⑩を担当の先生が穏やかに語りかけ、「ない」「時々ある」「よくある」いずれかに○印をつけることを指示します。

- | | |
|--|--------------------|
| ①最近あまり食欲がない。あるいは、食べ過ぎてしまう。 | → 「ない」「時々ある」「よくある」 |
| ②なかなか眠れない。あるいは、朝の目覚めがすっきりしない。 (中 略) | → 「ない」「時々ある」「よくある」 |
| ⑨相談相手や話し相手がいなくて寂しい。 | → 「ない」「時々ある」「よくある」 |
| ⑩この1ヶ月、家族関係でうまくいかないことが増えた。 | → 「ない」「時々ある」「よくある」 |

⑨⑩には特に注意が必要で、①～⑧においてもストレス度を一人一人チェックし、声かけや面談等を行い、生徒が安心して学校生活を送れるように、サポートしました。

また、全学年、1週間に1回登校し、出された課題に取り組みましたが、教職員からは、予想を超えた生徒の取組に驚きの声が上がりました。ここでは新2年生の例を挙げます。

- 【国語】 「古典ノート作りが現代仮名遣いと訳を分かりやすくまとめて、後から見直しがしやすいように工夫されていた。」
- 【社会】 「中学2年生らしいものや中学2年生のレベル以上に調べられたノートなど素晴らしいものがたくさんあった。」
- 【理科】 「理科の用語を調べるだけでなく、震源・震央について図でまとめている人もいた。やはり、理科は図で覚えることもポイントですね。」
- 【家庭】 「宿題から更に充実させて妹の洋服を作った人や手の込んだお料理に挑戦した生徒もいました。」

下線部(服部)などは、正にこれから未来を拓く生徒一人一人に身に付けさせたい力であり、この非日常の中で、子ども達は正しく導けばどこまでもしなやかに育つのではないかと感じました。

右掲は5/19(火)埼玉新聞の「さきたま抄」の結びをひらがな文にしたものです。答えは「今は非日常なのか、これが未来の日常なのか。我慢のしどころと、自らに言い聞かせている。」です。

「紙片」とボールペンを見つけ、心を落ち着かせて書いてみたいものです。

▼いまはひにちじょうな
のかこれがみらいのち
じょうなのか。がまん
しどころとみずからにい
いきかせている。